

こんにちは！2ヶ月ぶりの新聞となります。1ヶ月お休みしただけですごく久しぶりな感じがしています。笑
朝晩が涼しくなってきましたが、日中はまだ暑い日が続いていますね。弊社の社員も毎日飲料水をたくさん持って、空調服の充電も満タンにして現場へ向かっています。

土木工事には、道路を掘ったり加工する工事が多くあります。どの現場も最後には舗装工事をして綺麗に仕上げなければいけません。今回は、皆さんが毎日通る路面を平坦に仕上げしてくれるスペシャリストの仕事を紹介します。

TOPIC

アスファルト舗装が出来るまで・・・



バックホウでアスファルトを剥がします



ローラーで転圧します



アスファルトフィニッシャー登場!!
アスファルトを敷均す車両です



フィニッシャーにアスファルトを投入

今回ご紹介する舗装工事は「打ち替え」といって、アスファルトを全部剥がして、新しく舗装する施工方法です。まず、バックホウでアスファルトを剥がしていきます。その後、アスファルトの下の砕石部分（路盤といいます）をローラーで転圧して平坦にします。そこに乳剤という接着剤の役目の薬剤を散布します。これは路盤とアスファルトをしっかり接着させるためのものです。乳剤の散布が終わると、いよいよアスファルトを敷いていきます。

ここで、アスファルトフィニッシャーという大きな車両の登場です！



端は人力で整えます

紹介している現場は5m幅の道路です。
この幅を一気に施工出来るサイズの車両を使用します。車両前方の受け口部分へダンプトラックからアスファルトを投入し、車両後方から道路の幅に合わせてアスファルトが出てきます。後ろにはアイロンの様なものがついていて、出てきたアスファルトを平らに敷いていく事が出来るのです。この時のアスファルトの温度は約140℃!! 道路の端は人力でまっすぐになる様に、そして最後は車両ローラーで何度も転圧して締固めていきます。

舗装工事には他にも、古いアスファルトの上から新しいものをかぶせる「オーバーレイ」やアスファルトの上部を削って新しいものをかぶせる「切削オーバーレイ」など様々な工法があります。



細かい部分はやっぱり人力です



最後もローラーでしっかり転圧します



道路が出来上がってきました。
うしろ姿、かっこいい!!

マンホールの部分はどうやって舗装しているの？

道路にはいくつものマンホールがありますよね。上で紹介したように、舗装工事では大きな車両で一気にアスファルトを敷きならしていきます。では、マンホールの部分はどうやって施工しているのでしょうか。

実は、一旦はマンホールの上から覆いかぶせてアスファルトを敷いていきます。その直後にまだ熱くて柔らかいアスファルトを作業員がショベルで掘り返すんです。それから転圧して締め固めていきます。マンホールの周りは転圧も人力で丁寧に仕上げたから、車両ローラーで他と均一の高さになるよう一気に転圧します。便利な機械が出来ても細かな部分にはやっぱり人による手作業が欠かせないんですね。

転圧前なので、仕上がり面より厚くアスファルトを盛っています。



転圧完了。マンホールと同じ高さまで締固められました。

